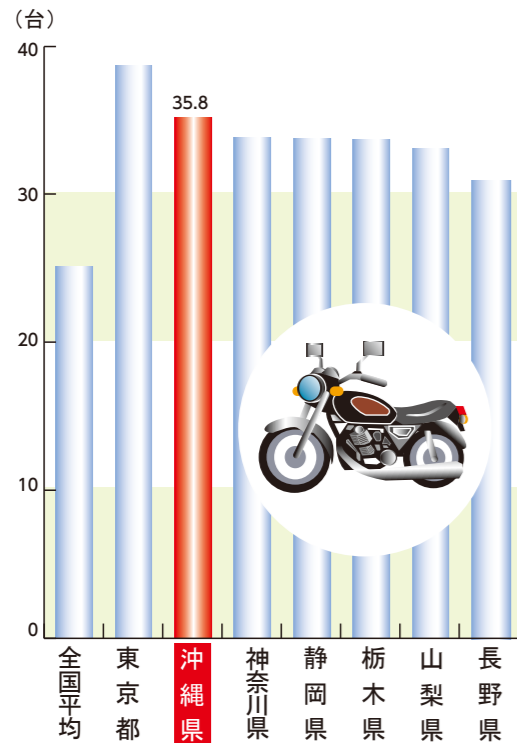


【二輪車保有台数】

(2010年)



35.8台/千人あたり

休日のパーキングエリア。ライダーズーツを着た男性や女性をよく見かける。晴れた日のツーリングは、バイク愛好者の最大の楽しみのひとつだろう。

沖縄県内には、どれくらいの数のバイクがあるのだろう。財団法人自動車検査登録情報協会「自動車保有台数統計」によると、県内の二輪車保有台数は50,399台。人口千人あたりに換算すると35.8台。これは東京に次ぐ全国第2位の水準だ。

2005年にはAT限定バイク免許が新設された。以前より手軽に大型バイクに乗れるようになったためか、女性のライダーも増えてきたような気がする。

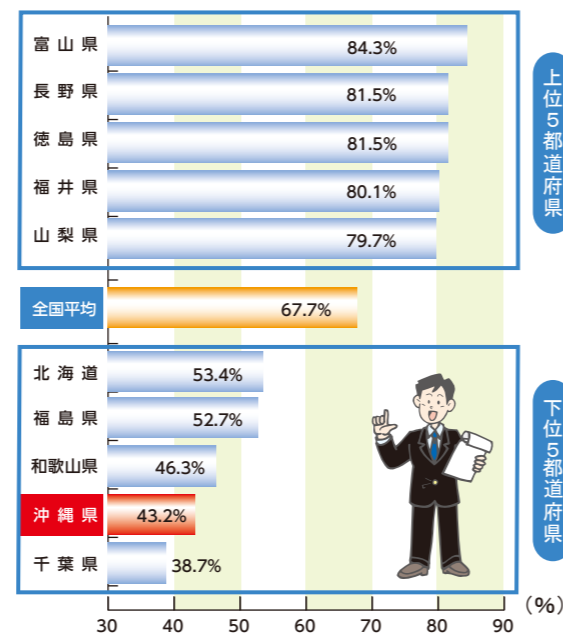
仲間と一緒に週末は北部までツーリング。たまにはそんな休日を過ごしてみたいものだ。

まずは免許をとらなくては・・・。

(海邦総研経営企画部／中山禎)

【正社員の割合】

(2010年)



43.2%

「正社員とは、雇用形態の一つで、会社と雇用期間の定めがない雇用契約を締結した社員のこと」をいう。

昨今では、景気低迷の影響で企業のリストラが続き、経費削減のために正社員を解雇し、契約社員を雇い入れる企業も増えているようである。

経済産業省「2010年企業活動基本調査速報」によると、沖縄県の正社員率は43.2%で、全国の中では千葉県の38.7%に次いで低い割合となっている。ちなみに1位は富山県の84.3%となっている。

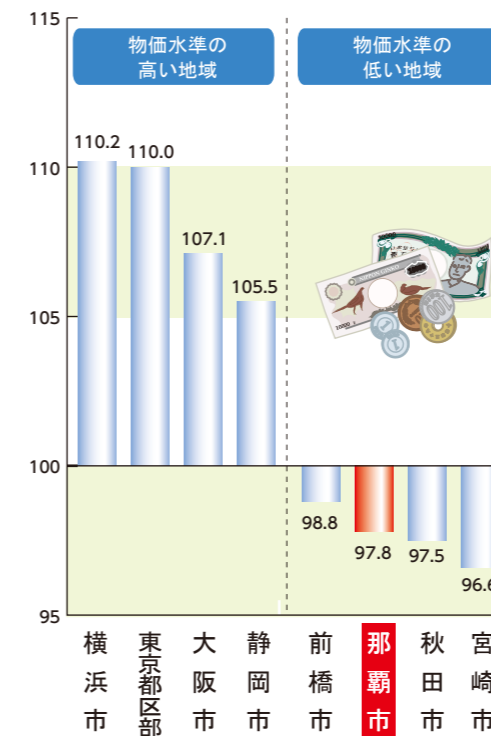
沖縄は海に囲まれているという地理的要因のため、流通コストが割高である。そのため、常用雇用が比較的多い製造業などの産業が発展するには、コスト高となり、難しい地域となっている。

生活が安定した正社員を増やすためには、沖縄にも大規模な産業を根付かせる必要があるのだろうか…。

(海邦総研経営企画部／上江洲龍)

【消費者物価地域差指数】

(2008年)



97.8/全国=100

沖縄の物価は高い?安い?

それを示すのが、消費者物価地域差指数である。全国平均を100として各地の物価水準の差を表す指標だ。

総務省「2009年平均消費者物価地域差指数の概況」によると、那覇市の消費者物価地域差指数は97.8。全国の県庁所在地のなかで、宮崎市(96.6)、秋田市(97.5)に次いで3番目に低い。一方、最も高いのは横浜市(110.2)で、2位の東京都区部(110.0)を上回っている。

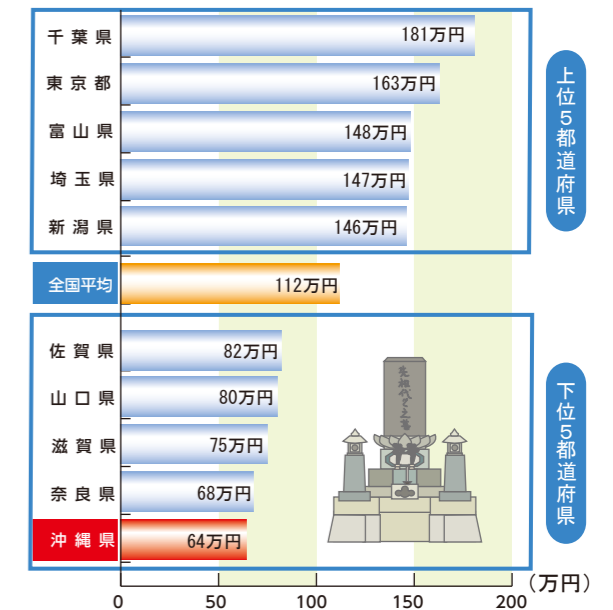
ちなみに、2007年の那覇市の消費者物価地域差指数は96.6で46位。2年間で1.2ポイント全国平均に近づいた。

沖縄の物価水準はあらゆる分野で低いわけではない。島嶼県ならではの特長として輸送コストのかかる商品はむしろ割高だろう。低水準の要因は、家賃や教育娯楽などサービス物価の安さにあるようだ。

(海邦総研経営企画部／大井佐和子)

【葬儀平均費用】

(2009年)



648,937円

「元旦や冥土の旅の一里塚。めでたくもあり、めでたくもなし」。めでたい正月だが、年を経るごとにそのときも近づく。こう詠んだのが、かの一休宗純禅師。

株式会社全国葬式サービスの調べによると葬儀費用の全国平均(2009年)は112万円。最も高かったのは千葉県の181万円。最も低いのは沖縄県の64万円となっている。千葉県の約3分の1の水準となっている。

ちなみに全国の内訳は葬式関連費73万円、料理・飲食費16万円、返礼品23万円だった。費用の差は通夜での飲食接待などが影響しているとみられ、沖縄や近畿の一部の県が低いのは、飲食費に余りお金をかけないことが関係しているようだ。

長寿県沖縄、長寿を全うし、葬儀にかかる費用は少ないかもしれないが、子、孫、多くに知人に見送られる風景を目にする。同じ日本でも葬儀に関する意識は大きく違うのだ。

(海邦総研会員事業部／照屋昇憲)